高知大学共通教育広報誌［パイプライン］

PipeLine

47
2016.6

特集

教養科目

教養科目授業の感想、意義、枠組み、受講にあたってのアドバイス等

No.47 Contents

特集「教養科目」	P1~9
共通教育自己点検・自己評価部会の活動	P10
共通教育実施委員会からのお知らせ 平成28年度から共通教育のカリキュラムが変わります!	P11

特集

教養科目

「教養科目」授業の感想、
意義、枠組み、受講にあたっての
アドバイス等

Part 1　学生記者から

※学生記者の皆さんには、平成27年度第2学期に寄稿していただきました。

人文学部
人間文化学科
2年

貞友　愛

教養科目について

「教養科目」とは、幅広い分野を学べる科目です。ほとんどの教養科目が学部学科を問わず履修することができ、理学部の人と人文学部の人が同じ教養科目を履修することもできます。そのため、学ぶことは、その分野の基礎的なものであることが多いです。文系の学部の人でも、理系の内容に興味があるという人や、その逆の場合でも、自分の苦手な分野に手を出してみるということもできるでしょう。

私の場合、人文学部でバリバリの文系なのですが、生物に興味があったため、教養科目で生物に関する授業を取っていました。その授業では、動物の進化について様々な画像資料を見ながら知っていくという形を取っており、難しい計算をする必要もなく、私の知らない生物の一端を知ることができたと思います。

もし、興味のある分野があれば、得意不得意に関わらず、教養科目で履修し、自分の見聞を広めることに繋げてみてはいかがでしょうか。

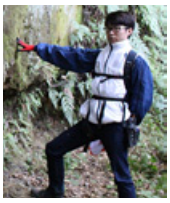
人文学部
社会経済学科
4年

岩本　麻希

教養科目で培った力

教養科目は自分の所属する学部や学科と異なる分野であっても受講することが可能で、かつ入門の要素が強いため、たとえ初めての分野だとしても安心して受けることができる授業となっています。そして、大学では教わったことをそのまま受け止めるだけではなく、自分の考えを持つことも求められるのですが、私にとって教養科目とは、その力を鍛える絶好の機会であったと考えます。

例えば私の場合、「心理学を学ぶ」の授業で、何気なく行っていた行動にも実は合理的な理論が存在するということを学び、そこから、当たり前だと思っていた常識に流されるのではなく、どうしてそのような常識があるのか関心を持つことで、自分の考えを深める力を培うことができました。そして、このときの経験は現在専攻する法律の分野でも役立つものとなっています。このように、専門外の教養科目であったとしても、学んだことは自らの専門でも活かすことできると思うので、教養科目を選ぶときは自分の専門の分野かどうかにこだわらず、ぜひ色々な科目に挑戦してみてください。



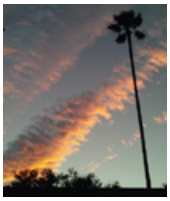
理学部
理学科
平成28年3月卒業

横山　紀樹

教養科目を履修して

大学入学当時、初めて履修科目の一覧を見たときの戸惑いを今でも覚えています。大学は、高校よりも高度な専門性の高い授業を受けるところだという先入観と期待感でいっぱいだった当時の私は、一年生の内で履修できる専門科目の少なさに戸惑ったのです。そして、履修する教養科目の多様さと言ったら、その戸惑いに拍車を掛けるようなものでした。

ですが、それもまた大学で学ぶべき科目の性質なのだと履修していくうちに感じていきました。私は理学部所属ですが、教養科目は自然分野に偏らず、必要単位の半数以上を社会分野や人文分野の科目を履修しました。自身の専攻する分野の専門科目はもちろん必要な科目であるし、楽しく学べるでしょう。しかし、教養科目として専攻する分野とは異なる分野の知識を学ぶことは、自身の知見を広くするだけでなく、国内外や身近な社会問題に目を向けて考えたりと、私たちのような年代にとって非常に意義のあるものだと思います。自身の興味の向く科目の他にも、そういった科目を履修することもお薦めします。



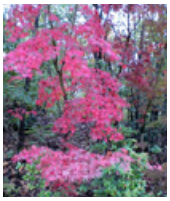
理学部
応用理学科
4年

土居　真侑子

教養科目について

教養科目は、専門性が高い大学において視野を広げて物事を捉えるきっかけのようなものだと私は考える。生態系について考える理学的な立ち位置とその地域の人達の市場について社会的な立ち位置から考える講義があった。このような複合的な授業では普段会わないような違う学部の人も参加しており、その人達と意見交換ができる。学部が異なるため大学内では殆どすれ違うだけのような人達の意見を聞いたり話したりするのは新鮮であった。

また、教養科目は別段、難しく考えることなく自分の専門性とは異なる学問を気軽に学ぶことができる。古典や文学は、理学部に所属していると教養科目でなければ気軽に触れることができないだろう。全く関わりを持たない科目だからこそ、教養科目は自分自身にとって見聞を広げる貴重な機会であると考える。それを上手く使うかは自分次第だがそれによって大学生活の過ごし方や自身の考え方などが少し変わるかもしれない。



医学部
医学科
平成28年3月卒業

竹内　雅音

教養科目について思うこと

6年生になった今、私が教養科目について思うことは、1年生のときにもっと真面目に勉強しておけば良かったなということです。医学生は患者さんを救うためにたくさんの医学知識を学び、理解しなければなりません。その専門知識の量は教科書にして10万ページにも及ぶと言われています。そうすると、教養を高めるために使える時間は1年生のときだけなのです。医師は患者さんを選ぶことができませんから、多種多様な職業や生活環境を背景として持っている患者さんを深く理解するには幅広い教養が欠かせません。もちろん自分で勉強したければいつでもできますが、教養科目を専門とする先生方に教えてもらえる機会というのはとても貴重です。しかし、私がこのことに気付いたのは随分後で、あのとき真面目に勉強しておけばよかったと後悔したのです。後輩の皆さんには、教養科目も真面目に勉強しておけば将来必ず役に立つことを知っておいて欲しいと思っています。

教養科目～生命倫理学の授業について～

医学部
看護学科
2年
宮崎　皓也

看護学科１年の後期にある「生命倫理学」という科目は、前半の授業で生命倫理を歴史的背景から学び、後半はそれらの知識を生かし、事例をもとに５回にわたりディベートを行うというものでした。この科目で私は、医療者を目指すうえで忘れてはいけない、大切なことを学んだと思っています。

医療現場のみならず日常生活でも、私たちはこの生命倫理といつも背中合わせの選択をしています。延命治療と緩和ケア・尊厳死、生殖補助医療、高齢者の１人暮らし、そのどれもが問題点を抱えており正解などありません。たとえ患者自身にとって最善の選択だと思えても、別の意味での患者の人権侵害や、多くの犠牲や不利益をはらんでいるのだと、ディベートを通して強く感じました。

この科目は、決して正解を導くためのものではありません。自分たちがどう考えてその選択をし、別の選択のどこが問題で、互いにどう対策するのか、その考える過程が大切なのです。医療者として、生と死に真摯に向き合っていくことの大切さとその心構えを学べる科目だったと考えています。

教養科目について

農学部
農学科
4年
大家　知也

教養科目は人文分野、社会分野、生命・医療分野、自然分野、外国語分野の５分野に分かれていますが、どの分野の授業も受講することができるので様々な分野を幅広く学ぶことができます。私は農学部なのですが、それぞれの分野の多種多様な授業を受講することができたので視野が広がり、また、農学だけではなくいろいろなことに対しての興味も駆り立てられました。さらに、他学部の人たちとも多くの関わりが持てるので個人個人の視点の違いやものの考え方の違いについても多くを学ぶことができます。自分の専門以外の学問分野であっても、それについて理解を深めることで自らの専門分野とリンクする部分を見出すなど、新しい発見をすることができます。これから教養科目を受講される方たちは、なるべく広い分野から科目を選択し、また自らの専門分野にもその体験を生かせるということを意識しながら受講していただきたいと思います。

「教養科目」

農学部
農学科
3年
上田　修平

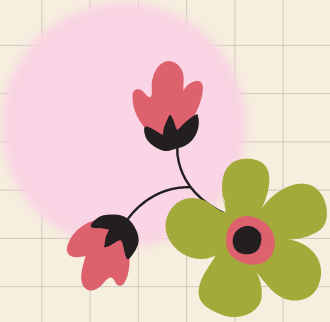
高知大学生が「教養科目」に対して抱いている印象、それは専門科目で1週間の授業を埋めた際に出る空きコマの“穴埋め”であったり、単純に単位が足りなくて、興味が全くなくても単位を増やすためにやむを得ず取る科目という印象が強くあると思う。しかしそれは全く違う。まず、「教養科目」は5つの様々な分野に分かれている。人文、社会、生命・医療、自然、外国語、と各々の興味に応じて選びやすいというのも特徴の一つであると思う。「教養科目」は本当に様々な分野且つ多くの種類の授業が用意されており、面白い授業も数多くある。自分は現在農学部の海洋コースで、1年生の時に教養科目を取る際、自然分野のものを多く履修していたのだが、2年生から始まる専門ではこういった授業をやるのだとか、こんな流れで海洋の事を学んでいくのだ等を教わり、2年生で専門的な勉強を始めるための準備にもなったと感じている。以上の事から、たとえ“穴埋め”のために取る「教養科目」であったとしても、是非自分の興味に近いような授業を履修していってほしいと思う。

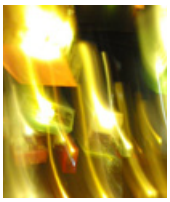
地域協働学部
地域協働学科
2年
岡田　佳穂

教養科目について

教養科目は、自分の所属している学部では掘り下げて取り組むことができないけれども、自分が興味を持っている分野について学ぶことが可能なところが、魅力的だと思います。例えば、私が受講している「心理学を学ぶ」では、地域協働学部の専門科目とはまた違う面白味があり、高校の時の授業とは比べ物にならないほどの、専門的な深い学びを得ることができます。そして、そこが教養科目の良い点であると、私は考えています。

学問の愉しさは、答えの確定していない問いを立て、問いに学ぶことにあります。しかし、単位の取りやすさで授業を選んでいては、それを十分に噛み締めることができません。自分が興味を持てる授業を受講して、初めて学問の愉しさに気付くことができるのだと思います。また、大学の魅力の一つに、色々な人々に出会い、様々な考え方に触れることができることがありますが、専門科目が多い私たちの学部にとっては、違う学部の人々とも交流をはかることのできる、数少ない機会が教養科目の授業であり、大学生活を送る上で、とても貴重な科目だとしみじみと感じています。





地域協働学部
地域協働学科
2年
米澤　望

教養科目について

教養科目は、各学部で異なる専門科目とは違い、自分が興味のある分野を他学部の学生と学ぶことのできる時間、という印象があります。私が所属している学部では、主に地域の事をこれから卒業まで学んでいきますが、専門分野に加えて、地域での知識の生かし方が多様なものになる要素を、教養科目から学ぶことが出来ると思います。

同じ学部の友人の中では、この教養科目も地域関連科目となっている授業をとる人もいますが、私は昔から興味のあった近代美術を学べる、「近代美術への接近」という授業を受講しています。この授業では、スクリーンに近代を代表する画家の作品を映しながら、描かれた時代背景や画家たちのエピソードなどを解説していく、という内容です。集中講義の中にも教養科目があります。それぞれが興味のある事を、他学部の学年も異なる人と一緒に学べるというのも、大学で講義を受講するうえでは大事な選択肢の一つだと感じています。

土佐さきがけプログラム
生命・環境人材育成コース
2年
小椋　梨花

教養科目について

教養科目には学部の域を超えて受講できる授業が多く、どの学部の生徒にも分かるようにかみ砕いて説明してくれるものも多いので、今までに勉強したことのない分野でもしっかりついていくことができます。しかし、逆にいうと興味があり、既に詳しかったり、勉強していたりすると少し物足りなさを感じるかもしれません。私も実際おもしろそうだなと思って受講した授業のなかには思っていたものとは違ったといったものがありましたが、授業が難しくてついていけなかったということはありませんでした。教養科目では自分がどういった分野に興味があるのか、その分野ではどういったことを学ぶのかなどを確かめることができると思います。そして最後に、これはどの科目にもいえることですがしっかり学ぶ意欲をもって授業に取り組むかどうかで９０分が無駄になるか自分のためになるのかが変わってくると今までの大学生活を通して実感したので、積極的な姿勢を大事にするべきだと思います。

土佐さきがけプログラム
国際人材育成コース
2年

平已　瑞穂

教養科目授業について

私は、教養科目としていくつかの授業を受講していますが、その中の一つに「ライフサイエンスの世界」という授業があります。週に一度の講義で、オムニバスと呼ばれる、毎回講師の方が変わる形式の授業です。教養科目にはオムニバス形式の授業が多く、この「ライフサイエンスの世界」では、多くの農学部の先生が講義に来られます。この授業は専門的な話が多く、文系の私には難しいこともありますが、自分の専門分野を勉強しているだけでは身につかない知識がつくと感じますし、とても役立つとも感じます。

また教養科目は、授業によっては人数があまり多くなく、普段関わらない学部の人と授業を通して仲良くなることがあります。私の所属するTSP（土佐さきがけプログラム）は一学年の人数が少ないので、他学部の友達が増えることはとてもうれしいです。

受講の際には、分野ごとの必要な単位数を確認することと、教養科目は履修登録の人数が多くなり、抽選になることもよくあるので、少なくとも第二希望までは考えて授業を選ぶことです。大学でしか学べないことも多いので、しっかり考えて選んでくださいね。

教育学部
生涯教育課程
4年

竹村　香名子

教養科目を受講して

私は入学当初、大学での学びは“専門性を高めるもの”だと感じていました。しかし、教養科目という専門外の分野を学んでいくうちに、様々な分野の理解を深めることは、自分の視野を広げることに繋がると気付きました。視野が広くなることで、自分の専門分野を新しい視点から捉えることができたり、他の分野と絡ませながら学習を深めたりすることができます。

私がそれを強く感じたのは「体験する数学」という授業でした。文系の私は数学と聞くと苦手意識を感じてしまいがちでした。しかし、この授業は物を作りながら体験的に数学を学ぶことができるような内容で、手を動かしながら楽しく数学の考え方を理解することができました。私の専門である美術の分野と関連している部分を発見することもでき、数学に対する意識が変わったように感じます。

教養科目を受講する際には、自分の専門分野にとらわれずに広い分野から選択することで、新しい発見や自分の可能性を広げることにつながると思います。

教育学部
生涯教育課程
4年

若瀬　夏歩

教養科目について

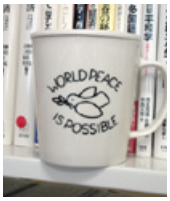
岡村眞先生の「地震の災害」の講義を受講して、来るべき南海トラフ地震の恐ろしさを再認識し、災害に備える大切さを感じた。実際に、地震による液状化現象や地割れが起こる仕組みの実験をすることで、どのようにしてその現象が起こるかが分かった。講義の中で「地震は災害ではない。災害は人が作ったものが壊れて、人が起こすもの。」という言葉が心に残っている。地震や津波は自然現象で、人が生み出したモノが壊され、流されて災害になるのである。地震はいつ起こるかわからない。地震列島の日本は、過去の人たちが地震に関する記録も多数残してくれている。南海トラフ地震が起きると、沿岸部が多い高知県は津波の被害は免れない。そのために各地域が津波非難タワーの建設や、防災マップの作成などをして防災対策を練っている。災害に備えるとは、個人で生活環境を見直すことや、地域の人たちと連携していざというとき何をすべきかを考えていくことである。

特集

教養科目

「教養科目」授業の感想、
意義、枠組み、受講にあたっての
アドバイス等

Part 2　教員から



人文社会科学部

中西　三紀

「平和と軍縮」について

1. 授業のテーマと構成

「平和と軍縮」の授業テーマは、現在の世界情勢の動向を把握し、平和構築のあり方について認識を深めていくと同時に、受講者自身が今日の平和構築の「当事者」として、自ら問題解決に向けて主体的に探求し、実践的に取り組んでいくようになることです。そのために、前半はレクチャー・フィールドワーク編として政治学、経済学、法学、平和学等を専門とする教員の講義を聴きディスカッションを行い、後半はアクティビティ編として、前半のレクチャー・フィールドワーク編で提起された問題点や学生自身が日ごろから感じている疑問点について、グループで調査研究し、プレゼンテーションを行うという授業構成をとっています。

2. 受講にあたってのアドバイス

私たちが生きている社会はとても複雑です。平和について考えるときには、私たちはこの複雑な社会を様々な角度から考察することが必要となります。そうした考察をふまえて初めて平和構築のための道が見えてくるのだと思います。平和構築の当事者として主体的に探求し実践的に取り組んでいくことは簡単ではないのです。しかし一方では、物事を単純化し、都合の良いところだけを切り取ってそれを繋ぎ合せた聞き良い言葉があふれている時代でもあります。「平和」や「軍事力」についてもこのことは当てはまるのではないでしょうか。この授業を受講する際には、この二つのことをぜひ頭の片隅にとどめておいてほしいと思います。繰り返しになりますが、簡単かつ単純な平和構築の道などないのです。

3. 感想

授業ではラテンアメリカの軍事政権について講義しています。馴染みのない地域の内容のためか、授業後のレポートでは「新たな視点が得られた」等々の感想が寄せられ、ささやかながらも皆さんの世界観を広げることに役立っているようでうれしく思っています。今後とも、地球の裏側からの問題提起を続けていきます。

理学部

近藤　康生

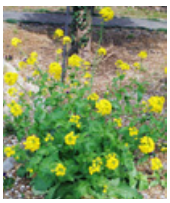
共通教育と自然史博物館

共通教育では、海底資源がご専門の臼井教授と、古生物学を専門とする私の二人で、「地球と宇宙」という授業を担当しています。

さて、何事もそうだと思いますが、地学は特に、「百聞は一見にしかず」という言葉がふさわしい分野で、理想的には受講生を野外に連れ出して、地形や地層、化石などを見てもらいたいというのが本音です。そのため、安田町の唐浜農道沿いに、自由に観察と化石採集が行える化石採集場を町に整備してもらいました。土佐くろしお鉄道ごめん・なはり線の唐浜駅から北へ徒歩5分の場所で、駅には詳しく解説した看板もあるので、ふらっと出かけてもいろいろと勉強できます。

ただ、共通教育で外に出かけるのは難しいので、次善の策として考えたのが博物館見学レポートでした。このレポートは、長年、「地球と宇宙」の授業の課題としていて、高知県内では、佐川地質館や横倉山自然の森博物館などの地学系博物館や牧野植物園などをおすすめしています。その他、帰省先で手頃な博物館を探してもらいます。単なる感想をレポートするのではなく、展示物の中からこれはというテーマを見つけ出し、それを掘り下げることを求めています。受講生に聞いてみると、地元の博物館でも行ったことがなかった、という声が意外と多く、この授業のレポート課題が博物館へ足を運ぶ良い機会になっているようです。このレポートを読むのは私にとって楽しみで、まだ行ったことのない博物館や私自身が詳しくない展示物についてのレポートは、私の方が勉強させてもらっています。

自然史博物館には選りすぐりの実物標本が展示されており、デジタル情報からは得られない、圧倒的な情報量と強烈なインパクトを感じることができます。理学部1号館玄関左手奥のサイエンス・ギャラリーには、理学部教員の授業に関連した自然史標本が展示されていますので、こちらもまだ見ていない人はぜひ一度ご覧ください。



医学部

野田　智洋

教養科目について

医学部では、国際認証評価制度に耐える新しいカリキュラムを策定するため、カリキュラム検討ワーキンググループが立ち上がったところである。カリキュラムの改善に当たり、教育を受ける側の意見も反映させるのが良いとの判断から、学生もメンバーに加わっている。会議の冒頭、現行カリキュラムに対する学生の意識調査が紹介された。1年生からは、「高校授業の繰り返しに意味はあるのか」、「教養科目の比重が大きすぎる」との意見が多かったと言う。

平成3年の大学設置基準大綱化から現在まで、教養科目は常に逆風に晒されてきたように思う。バブル崩壊によって景気は悪化し、学生は就職できなくなった。経済効率を優先する考えは繰り返しや回り道の学習を否定し、資格取得に繋がらない教養科目を軽視する風潮を助長した。高校の進路指導は実学重視となり、すぐには役立たない学問に対する寛容さが社会から徐々に失われていった。医学部では医師不足が追い打ちをかけ、医科大学時代の教養科目を教えていた教員が抜ける度に、専門科目担当の医師が採用された。

その結果、後に残された教員が専門外の教養科目を独学で学びながら、何とか自転車操業を続けてきたのが実情である。飽きっぽい元来の性格が幸いし、異分野を興味深く学び続けてきたが、自らが学生時代に受けた教養科目の恩恵も大きかったに違いない。もちろん、共通一次世代が蓄えている5教科7科目の基礎知識がベースになっているだろう。そう考えると、逆風の中を何とか綱渡りしてこられたのは正に、教養のチカラだったのである。初めから専門科目だけを教えていたら、転職を余儀なくされていたかも知れない。

アメリカの研究者キャシー・デビッドソンは、「米国で2011年度に入学した小学生の65％は、大学卒業時、今は存在していない職に就くだろう」と語っている。米国の小学生ほどではないにしても、高知大学の学生諸君もその状況に近づくことは間違いない。変化の激しいこれからの時代を生き抜く力を身につけて卒業して欲しいものである。

農林海洋科学部

松島　貴則

農学部学生の教養科目受講と就職活動について（雑感）

農学部学生の教養科目受講を考える上で、古くて新しく、非常に重く、そして密接に関連した２つの課題、「キャンパス問題」と「幅広い視野の養成」が存在する。

「キャンパス問題」は、朝倉キャンパスと物部キャンパスとの空間的距離に起因する多様な問題の総称で、農学部学生の教養科目受講においてこの問題が重要度を増したのは、2年生からの物部キャンパスへの移行（1998年からの全学出動による共通教育の開始と同時）によってである。それまでの物部キャンパスでの教養科目開講は、2年生までに教養科目の要卒単位を修得できなかった学生の救済的性格が強かったが、それが全学部生の要卒単位修得のための開講となり、教養科目担当教員のキャンパス間移動開講の負担増、学生の授業履修範囲の縮小等が焦点となってくる。

また、1993年度入学生からの要卒単位数の変更（136→124単位）、1998年度からの共通教育の開始（基軸教育科目12単位と基礎科目の配置により教養教育科目26単位へ）をはじめとして教養教育軽視的な教育改組が進む中で、先述したキャンパス問題を抱える農学部において、いかにして「幅広い視野から物事を捉える」ことができる人材を育成していくかも課題となってくる。

1990年代に焦点となっていたこれらの課題は、人員削減やキャップ制の導入等の影響もあり、改善の努力虚しくますます深刻の度を増しているように感じられる。

他方、農学部学生の卒業後の進路は約50名が進学、約120名が就職その他である。かつては専門的な知識を生かし公務員として社会に巣立つ学生の割合が高かったが、近年では就職者全体に占める公務員の割合は10～15％程度まで低下し、民間への就職が主流となっている。教養科目の履修が大きく制約される状況下、自身の将来をしっかりと考え、それに応じた科目履修に傾注すべきであるが、いざ就職活動という段階になって後悔する学生も少なくない。今後、学生個々の希望進路に応じたきめ細かな履修指導が重要で、中でもアドバイザー教員制度の役割が重要となろう。

地域協働学部

霜浦　森平

教養科目について

私が担当する「食と農の経済学」では、「農業経済学」について講義し、食料・農業・農村問題を経済学的に読み解くための知識の習得を目指しています。農産物の安全、安心が叫ばれ、農業・農村の有する多面的価値の評価が高まる中で、農業は、食料生産に加え、健康、環境保全、あるいは循環型社会を推進するための役割を担いつつあります。同時に、農業・農村に対する価値観の変化に対応した経営戦略が求められています。講義では、農業経済学のベーシックな領域（農業を支える担い手や組織、食料の需要と供給）の解説を行うとともに、戦後の農業を取り巻く規制がどのように緩和され、これにともない、農業経営がどのように変貌しようとしているのかについて解説しています。特に、価格政策、食糧流通制度、減反（生産調整）政策等の制度・政策の変遷と変化を取り上げ、経営環境が大きく変わろうとする中で日本の農業にはどのような変革が要求されているのかについて考えるための講義を行っています。

本講義では、身近な存在である「食」を経済学というツールを通して理解することで、日常の身近なところにも実は多くの学問的なアイデアが潜んでいること、そのようなアイデアを掘り起こし、整理することにより、思いもよらなかった視点や考え方を発見できる可能性があることを学生に知ってもらう場にしたいと思っています。また、教養科目での学びや気付きが、主体的な学び（新聞記事を調べてみる、本を読む、インターネットで調べる・・・など）へと発展していってくれることも同時に期待しています。学問を学ぶ楽しさは身近なところに多く転がっています。日頃は何気なく見過ごしてしまいがちな身近な事柄を取り上げ、色々な角度から分析するための素養を身に付けることが教養科目の意義であり、また面白さだとも思っています。普段使いの知識を洗練させる。そのための機会として、ぜひ様々な教養科目を受講してほしいと思っています。

教育学部

宮本　隆信

スポーツ科学実技・硬式テニス

スポーツ科学実技として行われている硬式テニスの授業について紹介します。

硬式テニスは、現在、錦織圭選手やクルム伊達選手の活躍によって、注目度の高いスポーツとなっています。本授業では、硬式テニスを生涯スポーツとして位置づけて、授業を行っています。生涯スポーツとは、生涯におけるライフステージに応じてスポーツを楽しむことをいいます。大学生期におけるライフステージとしては、競技スポーツよりは、スポーツそのものの楽しさを味わうこと、同じスポーツを行う仲間との交流を楽しむことなどが重要となり、それらを学習することが授業の大きな目的となっています。

硬式テニスの楽しさは、ラケットを使用し、ボールをコントロールしながら、自分と相手の動きを判断し、ポイントを取り合うことにあります。近年は、ラケットの改良により「楽にいいショットが打てる」ようになってきています。

授業の目標は、以下に示すとおりです。

- 健康で、生涯にわたってスポーツを楽しむことと、硬式テニスを競技として楽しむことができるようになる。(関心・意欲、技能、態度)
- 基本的な技能を習得し、ゲームを楽しむ能力を身につける。(技能、知識・理解、態度)
- 授業全体を通して、仲間との交流、協力、安全性についても積極的に活動できるようになる。(態度、関心・意欲)

実際の授業では、グループ活動を中心にして、事前準備、片付けから始まり、テニスの楽しさを味わうことができるよう基本技能を身につけたうえで、シングル戦、ダブルス戦などをグループ対抗で行っています。

みなさんには、生涯スポーツに向けて、スポーツ、運動することの楽しさを感じ、スポーツをすることの喜びを感じられる授業を実践していきたいと考えています。

レッツ！スポーツ！

共通教育自己点検・自己評価部会の活動

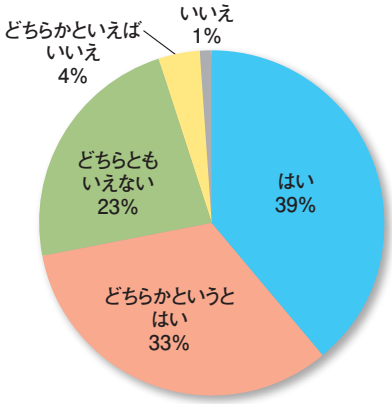
共通教育自己点検・自己評価部会長　松井　透

共通教育自己点検・自己評価部会は、FD部会と連携・協力しつつ共通教育の各分科会で行われる自己点検・自己評価活動の統括および支援を行っています。近年は特に「授業改善アクションプラン」の実施を中心に活動しています。

「授業改善アクションプラン」には学生アンケートやヒアリング、同僚によるピア・レビューや授業参観、スチューデント・フィードバックなど様々な方法が準備されています。中でも多くの教員は「5週目・15週目学生アンケート」を選択しています。教員は授業開始から5週目に学生アンケートを実施し、学生の意見を集約・分析します。さらに今後、授業内容をどう改善していくのが良いか?を考え授業改善計画を作成します。この時、学生さんの率直な意見が極めて重要になってきます。今回は5週目アンケートの「選択肢&記述式混在タイプ」アンケートについて少しお話してみようと思います。

学生アンケートには「選択肢オンリータイプ」と「選択肢&記述式混在タイプ」があります。「選択肢オンリータイプ」は実施時間が短くてすむ反面、選択肢として記載した以外の情報は得られにくいという問題があります。一方、「選択肢&記述式混在タイプ」は実施時間をある程度確保する必要はありますが、幅広い情報を得られるメリットもあります。アンケートを実施されている教員の約半数がこの「選択肢&記述式混在タイプ」を利用されています。今回はこの「選択肢&記述式混在タイプ」をどのように分析しているのか?を紹介してみようと思います。

アンケートデータは全学・共通教育係によりまとめられます（いつもお疲れ様です!）。教員には生データとともに、選択肢項目については円グラフで情報提供もされます。教員はこれらのデータを用いて授業改善計画を作成します。



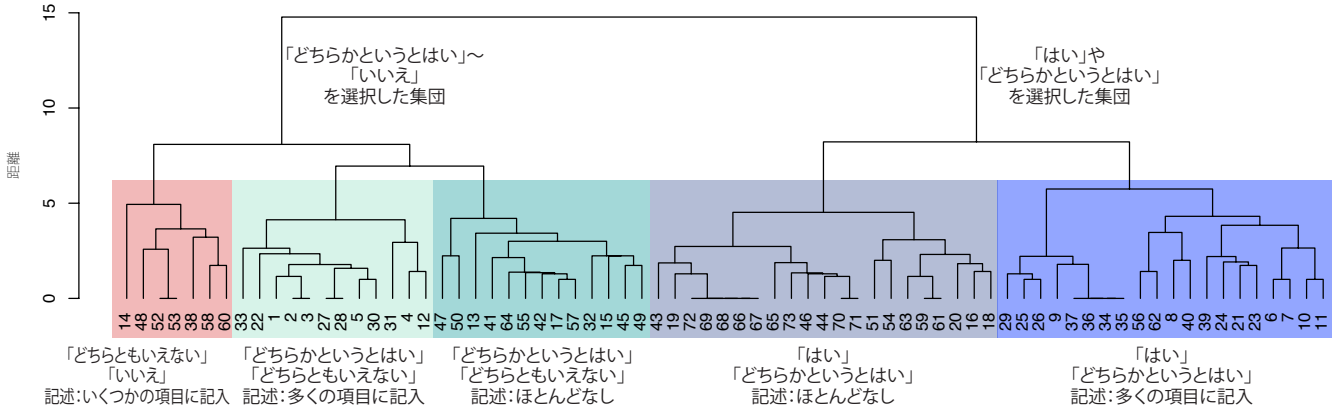
自己点検・自己評価部会では、ここからさらに踏み込んだ情報分析を行っています。
2014年6月発行のPipeLine No.43では自由記述欄の分析について紹介しています。興味のある学生さんはぜひ読んでみて下さい。（https://olss.cc.kochi-u.ac.jp/kyo2/pdf/043.pdf）アンケート作成&実施依頼を行っている本部会としては、学生さんが「選択肢&記述式混在タイプ」アンケートでどのくらいの学生さんが記述してくれるのか?どのようなタイプの学生さんが記述してくれるのか?などなど、様々な点が気になります。

では、中規模な講義形式授業で実施されたアンケートデータを分析してみましょう。今回は回答した学生さんひとりひとりについて、学生間で回答データがどれだけ似ているかを算出し、似た学生さん同士をまとめあげる「クラスター分析」を行っています。

この結果、まずは『「はい」や「どちらかというとはい」を選択した集団』と『「どちらかというとはい」～「いいえ」を選択した集団』の2つに分類されました。『「はい」や「どちらかというとはい」を選択した集団』は肯定的評価ですが、その集団の半分は記述欄に全く何も書いていませんでした。どのような点が良かったのかを具体的に書いてもらえると助かるのですが…やはり回答時間や労力の問題でしょうか?

『「どちらかというとはい」～「いいえ」を選択した集団』はさらに大きく3つの集団に分類されました。「どちらかというとはい」「どちらともいえない」を選択した集団は、先程の肯定的な評価と同様に約半分は記述欄にまったく何も書いていませんでした…そして『「どちらともいえない」や「いいえ」を選択した集団』（図の左端の集団）は、この授業に対して比較的否定的な評価を行っている学生さんが集まっています。数は少ないものの、具体的な問題点を記述してくれていて、読む側としてはとても耳が痛いのですが、「なるほどなぁ」と感じる内容も多いです。つまり、授業改善にはとても有益な情報なのですね。でも、ちょっとばかり回答者数が少ないですね…。

実際、限られた時間内に多くの項目について記述するのは学生さんとして大変だと思います。ですが、授業改善のためにも何とか頑張って記述して欲しいところです。あなたの一言の記述が授業を変えるかもしれません。よろしくお願いいたします!



平成28年度から共通教育のカリキュラムが変わります！

地域協働学部を除き、平成28年度入学生から、共通教育のカリキュラムが変更になります。

共通教育科目は、平成27年度入学生まで「初年次科目」「教養科目」「共通専門科目」の3つの区分で構成されていましたが、平成28年度入学生から「共通専門科目」が廃止となり、共通教育科目は「初年次科目」「教養科目」の2つの区分での開講になります。今まで共通専門科目として開講されていた授業の多くは各学部の専門科目として開講し、一部は教養科目へ区分変更して開講します。

また、共通専門科目であったキャリア形成支援科目が、新しく教養科目のキャリア形成支援分野として開講することになりました。これにより、教養科目が「人文分野」「社会分野」「生命・医療分野」「自然分野」「外国語分野」「キャリア形成支援分野」の6つの分野となります。どの分野から何単位修得する必要があるかは学部によって違いますので注意して下さい。

〈平成27年度以前入学生,地域協働学部生〉

共通教育科目	初年次科目	大学基礎論
		学問基礎論
		大学英語入門
		英会話
		情報処理
		課題探求実践セミナー
	教養科目	人文分野
		社会分野
		生命・医療分野
		自然分野
		外国語分野
	共通専門科目	基礎科目
		キャリア形成支援科目

〈平成28年度以降入学生（地域協働学部を除く）〉

共通教育科目	初年次科目	大学基礎論
		学問基礎論
		大学英語入門
		英会話
		情報処理
		課題探求実践セミナー
	教養科目	人文分野
		社会分野
		生命・医療分野
		自然分野
		外国語分野
		キャリア形成支援分野

編集後記

今号の特集は教養科目でした。学生記者の皆さんの記事を読むと自分の学生時代を思い出します。授業は履修登録のときに選びますが、そのときの「面白そう」と実際に授業に出たときの「面白かった」は意外と合致しないもの。ただ友だちに誘われてとった科目が、その学期の一番だったり（そんなことないですか）。食わず嫌いはせずに、ぜひいろいろな科目にも挑戦してみてください。（夕）

高知大学共通教育広報誌 PipeLine［パイプライン］No.47
発　行 / 高知大学共通教育実施委員会
編　集 / 共通教育実施委員会広報部会
〒780-8520 高知市曙町2丁目5-1
☎088-844-8168（学務課全学・共通教育係）
発行日 / 2016年6月
制　作 / ㈲西村謄写堂
□広報・記事についてのご意見をお待ちしています。
Mail：gm06@kochi-u.ac.jp